

**日本技術士会近畿本部 建設部会 & 防災研究会 合同見学会**  
**「大阪府防災センター、大阪府庁周辺整備」現地見学会の報告**

開催日 : 平成 27 年 9 月 16 日 (水) 15:00~17:20

見学先 : 大阪府庁本館、別館、新別館

参加者数 : 16 名

### 1. 見学の概要

当日は、大阪府の防災、危機管理の中核的役割を果たす「大阪府防災センター」を見学後、災害対策本部室において、「情報収集体制」や「南海トラフ巨大地震の被害想定とその対策について」の説明を受けた。次に、別館の屋上へ移動し、「大阪府成人病センター建設状況」、「大阪第6地方合同庁舎整備計画」の説明を受けた。最後に、大阪府庁本館において、2 班に別れて「本館耐震改修工事現場」と「正庁の間」を見学した。

### 2. 大阪府防災センター及び災害対策本部室

大阪府危機管理室担当者の案内により、平成 25 年 3 月に設置された大阪府防災センター及び災害対策本部室を見学した。防災情報センターでは、災害対策本部での意思決定をサポートするために、「府本庁各課や地域防災推進室、府警本部、全市町村に設置した端末機から災害情報」「気象台や民間気象会社から気象情報」「府土木テレメータやため池テレメータから雨量・潮位・水位情報」「震度情報ネットワークシステムから震度情報」「府警本部や大阪市消防局のヘリコプターからの被害映像や災害現場でのデジタルカメラ写真」などの情報を収集している。収集した情報は災害対策本部室のマルチビジョンに表示でき、災害対策の決定に役立てるとともに、災害情報は災害毎にデータベースに保存蓄積され、情報管理されている。この伝達手段となる無線設備整備状況の説明も受けた。技術士会からは、防災で活用する地図に関することや無線の多重系システムに関する事など質疑を行った。



大阪府危機管理室担当者から、大阪近傍での歴史地震、阪神大震災や東日本大地震の事例から、地震の特徴などについて把握した後、大阪府の地震被害想定についての説明を受けた。

### 3. 「南海トラフ巨大地震の被害想定とその対策について」の説明

大阪府では上町断層帯などでの直下型の想定も行っているが、今回は南海トラフによる海溝型の地震による被害想定について説明を受けた。特に津波浸水での被害が甚大で、津波及び堤防沈下により 10 万人を超える死者数が想定されている。限られた時間で活発な質疑が行われたが、主な質疑は次のとおりである。

大阪府では上町断層帯などでの直下型の想定も行っているが、今回は南海トラフによる海溝型の地震による被害想定について説明を受けた。特に津波浸水での被害が甚大で、津波及び堤防沈下により 10 万人を超える死者数が想定されている。限られた時間で活発な質疑が行われたが、主な質疑は次のとおりである。



(Q) 1ヵ月後に被災者がもっとも多くなっているのはなぜか。

(A) ライフライン特に水道の復旧が遅れることによる在宅避難者も算定することによる。

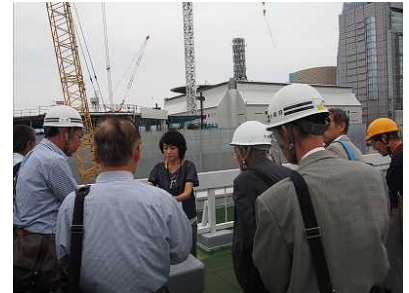
(Q) 人的被害の想定は、内閣府では1万人未満であるのに府は10倍以上と大きいのはなぜか。

(A) 津波被害の想定が大きく異なっているためである。

なお、大阪府の防災対策については、説明が割愛されたが、「大阪府地域防災計画」「新・大阪府地域防災アクションプラン」に関する貴重な資料が配布された。

#### 4. 大阪府庁周辺整備状況

これ以降は、総務部庁舎周辺整備課担当者により説明を受けた。はじめに、府庁別館屋上から、大阪府成人病センターの整備状況、大阪第6地方合同庁舎整備計画、大阪府庁本館耐震改修工事の概要説明を受けた。その後、2班に分かれて、本館の「耐震工事現場」及び「正庁の間」を視察した。



#### 5. 大阪府庁本館耐震改修工事現場

現在の大阪府庁は1926年10月に完成しており、鉄筋コンクリート構造を積極的に導入したモダニズム建築の先駆けとなっている。中央ホールは3階までの吹抜となっており、イタリア産の大理石の階段が2階まで続いており、映画やドラマのロケなどに使われている。

改修工事は、執務を行いながら、執務エリアと工事エリアを切り回しながら進められている。はじめに1階部分の耐震壁、次に地下の免震装置や基礎杭の施工状況を視察した。平成28年度には、歴史的・文化的価値の高い東館全体を耐震補強（基礎免震＋耐震壁によりIs値0.9相当確保）、平成29年度には、西館を撤去し改修工事を完了する予定である。



#### 6. 大阪府庁本館「正庁の間」

正庁の間は、かつて年末年始の行事や人事発令などの式典に使用されていた部屋で、5、6階の2層吹抜の空間である。近年は執務室として使用されていたが、内部の劣化も進んでいたことから、平成23年に竣工当時に近い姿に復元改修を行っている。大正時代を彷彿させる壮麗な装飾レリーフが全面に施され、天井（3面構成55㎡）や東窓（3箇所）のステンドグラスからの光が彩りを添えている。正庁の間において、技術士会と大阪府の担当者で本館耐震改修工事や正庁の間等について熱心な質疑を行った。



#### 7. 謝辞

今回の見学会のお世話及び説明をいただきました大阪府危機管理室、総務部庁舎周辺整備課の皆様にご礼申し上げます。

(文責：藪内生死)